

[学会]

第 853 回 千葉医学会整形外科例会

日時：平成 3 年 12 月 14 日 (土), 15 日 (日)

場所：千葉大学医学部附属病院第一講堂 (3 階)

1. Blount 病再発例に対して Orthofix 創外固定器を使用した 1 治験例

金 泰成, 後藤澄雄, 品田良之  
南出正順, 永原 健, 林 宗寛  
(千大)

7 歳, 男児, 右 Blount 病再発による内反変形の増強と脚長差がみられた症例に対し, Orthofix 創外固定器を用いて, 矯正骨切り術と仮骨延長法による脚延長を同時に施行した。右 FTA 188°, 15mm の脚短縮に対して, open wedge osteotomy にて矯正後 1 日 1 mm づつ延長した。術後 4 カ月現在, FTA は 167° で脚長差はなくなり完全な骨癒合が得られた。この術式は矯正と脚延長を同時に施行でき, 有用な方法と考えられた。

2. 両側大腿骨顆部壊死に対する高位脛骨骨切り術の 1 例

米田みどり, 土田豊実 (千大)  
佐久川輝章 (大木戸整形)

症例は 57 歳, 男性。両側大腿骨顆部壊死にて, 右側に高位脛骨骨切り術を施行。術前 FTA 182° が 167° に矯正された。本症例は 60 歳以下の男性, しかも両側という比較的稀な発症であった。肥満傾向がみられ, また肉體労働にて, 荷重負荷のかかりやすい条件を持ち, さらに X 線上の病変部位は荷重線に一致していた。腰椎部で BMD は著明に減少していた。これらのことより本症例の病因には外力が関与していると示唆された。

3. 高度内反膝変形に対する骨移植を併用した TKR (人工膝関節置換術) の 1 例

萩原義信, 土田豊実 (千大)

高度内反膝変形とは, 一般的に FTA が 200° 以上のものと定義されている。今回われわれは, 高度内反膝変形に対して移植骨を一塊として固定する TKR を経験したので諸家の内反膝変形に対する TKR の手術方法と比較検討しこれを報告した。諸家の手術方法と比較すると, われわれの行っている方法は, 人工関節の形状を

うまく利用した欠点の少ない, 優れた方法であった。しかし, 観察期間は短いため, <sup>99m</sup>Tc-HMDP を用いて移植骨の経時的変化を検討する必要があると思われる。

4. 両下肢痛を主訴とした長期透析患者の 1 例

増田公男, 土田豊実, 望月真人  
喜多恒次 (千大)  
添田耕司 (千大・人工腎臓部)

われわれは, 大腿骨頸部骨折にて人工骨頭置換術を施行した長期透析患者で, 経過観察中に両下肢痛を訴え MRI で脊髄腫瘍を認め, 腫瘍摘出術を施行した 1 例を経験した。本例の診断・治療に際しては, 原疾患の糖尿病による種々の合併症に加え, 10 年を超える透析歴を考慮し, 術前検査に侵襲性の少ない MRI のみを用い, その脊髄疾患に対する有用性を確認した。また当院の人工腎臓部が考案したスケジュールに沿って術前・術後の全身状態のコントロールを計った。今後このような長期透析患者の整形外科的疾患に対する手術例は増大するものと考えられた。

5. 下腿部に発生した infantile fibromatosis の 1 例

小笠原 明, 品田良之, 飯塚正之  
(千大)  
山下武広 (市立千葉)  
石井 猛 (国立柏)  
桑原竹一郎 (県対がん協会)

症例は 12 歳, 男子。生下時より右下腿の腫脹出現。その後, 腫瘍の増大・尖足の進行が見られ, 1 歳 9 カ月時右距踵関節後方解離術, 8 歳時アキレス腱延長術・腫瘍摘出術を施行。病理診断は fibromatosis であった。今回再発のため, 広範切除術を施行。desmoid type の腫瘍は, 病理組織より予後を判定するのは困難と思われた。